

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

| | |
|-------|-------------------------------------|
| 事業所番号 | 2773600453 |
| 法人名 | 有限会社 アキラ |
| 事業所名 | グループホーム アキラ |
| 所在地 | 大阪府交野市藤が尾6-4-1 (電話) 072-892-5241 |
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 評価機関あんしん |
| 所在地 | 大阪府岸和田市三田町1797 |
| 訪問調査日 | 平成20年4月17日 |

【情報提供票より】 (平成20年4月6日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|-------------|---------------------------|------|
| 開設年月日 | 平成15年 4月 1日 | | |
| ユニット数 | 2 ユニット | 利用定員数計 | 15 人 |
| 職員数 | 17 人 | 常勤10人, 非常勤 7人, 常勤換算15, 2人 | |

(2) 建物概要

| | |
|------|--------------|
| 建物構造 | 鉄骨 造り |
| | 2階建ての 1~2階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | | |
|---------------------|-----------------|----------------|----------|-------|
| 家賃(平均月額) | 42,000~75,000 円 | その他の経費(月額) | 25,000 円 | |
| 敷 金 | 有 (290,000 円) | | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 無 | 有りの場合 償却の有無 | 有 / 無 | |
| 食材料費 | 朝食 | 300 円 | 昼食 | 400 円 |
| | 夕食 | 600 円 | おやつ | 200 円 |
| | または1日当たり | 1,500 円 | | |

(4) 利用者の概要 (4月 6日現在)

| | | | | | |
|-------|------------|------|------|----|------|
| 利用者人数 | 15 名 | 男性 | 4 名 | 女性 | 11 名 |
| 要介護1 | 3 | 要介護2 | 5 | | |
| 要介護3 | 5 | 要介護4 | 2 | | |
| 要介護5 | 0 | 要支援2 | 0 | | |
| 年齢 | 平均 79, 7 歳 | 最低 | 70 歳 | 最高 | 89 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|-------------|
| 協力医療機関名 | 交野病院、楠元歯科医院 |
|---------|-------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホームアキラ」はJR学研都市線星田駅より徒歩約10分、周りに田園風景が残る住宅地にあり、2階建ての和風料理店を改装して平成15年4月から開設されている。道路から玄関までは広い空地があり駐車場として使われている。若い代表者や管理者を中心に「誰もが生き生きと生きていける 共生の市民生活」をアキラの理念として軽中認知症高齢者に対し、生活を再編成する為のリハビリテーションやケアを少人数で家庭的な生活の中で行うことにより、認知症の緩和や日常生活での自立を目指しています。下肢筋力低下にならないように利用者の毎日の散歩を心掛け、薬服用管理については一人の責任者を決め、朝・昼・夕・眠で袋を色分けし、万全の配慮を行っている。

【重点項目への取組状況】

| | |
|-------|--|
| 重点項目① | 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 年間研修計画の作成、認知症研修への参加、チームケア会議への全員参加・情報の共有化、2階トイレの改修、プライバシー研修の徹底等が改善点として挙げられましたがその後の改善ですべて改善されていました。特に職場間の情報の共有化とプライバシー研修については効果が上がっている。 |
| | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 評価の目的や活用について全職員が理解し、今回の自己評価について全員で取り組んでいる。自己評価表を作成する過程でこの職員の日頃のサービスへの課題も気づき、今後の改善点や日常サービスへの大きな力となっている。 |
| 重点項目② | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は3ヶ月に1回開催され、会議録もきっちり記録されている。参加者は区長・市職員・ホーム代表者・利用者代表・家族代表者・民生委員・ホーム管理者・介護支援専門員・介護スタッフでサービスの取り組み、地域情報の交換を通じ、ホームでのサービス向上、地域への参加へと繋いでいる。 |
| | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ご家族が訪問したときは、利用者のことについて職員と話し合っご意見を伺ったり、利用者の介護記録も見ていただいている。1カ月に1回訪問する介護相談員を受け入れ、ご意見をサービスに反映させている。ホーム便りも年4回発行し、訪問の少ない家庭には定期的に連絡を取って訪問を促している。 |
| 重点項目③ | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 事業所が地域の一人として地域の事業(小学校での昔話、夏祭り、お餅つき)に参加したり、地域の方も事業所に高齢者の相談に気軽に訪問してくれている。 |

2. 評価結果（詳細）

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------|------|---|--|----------------------|----------------------------------|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 認知症があっても、障害があっても住み慣れた地域でその人らしく暮らしたいという希望をかなえるホーム。「誰もが生き生きと生きていける 共生の市民生活」が〈アキラ〉の理念です。事業所独自の分かりやすい理念を掲げ、地域密着型サービスとしての事業所の役割を理念に示している。 | | |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 1・2階のリビングの壁に理念を掲示して、毎月の全職員との会議の中で理念をベースに日々のサービスに取り組んでいる。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 事業所が地域の一員として地域の事業（小学校での昔話、夏祭り、お餅つき）に参加したり、地域の方も事業所に高齢者の相談に気軽に訪問してくれている。又、職員の半分は地域の人で地域のこともよく理解して、町会の方と職員・利用者が一緒に地域の清掃にも参加している。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 評価の狙いや活用方法を全職員が理解し、今回の自己評価についても全員で取り組んでいる。前回の外部評価についてはすぐに評価の改善計画を立て、すぐに実施に取り組んでいる。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------|------|--|---|----------------------|---|
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議は3ヶ月に1回開催され、会議録もきっちり記録されている。参加者は区長・市職員・ホーム代表者・利用者代表・家族代表者・民生委員・ホーム管理者・介護支援専門員・介護スタッフでサービスの取り組み、地域情報の交換を通じ、ホームでのサービスの向上、地域への参加へと繋いでいる。 | | |
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 事業所は市と市内のグループホームとの連絡会や親睦会を通じて積極的に意見交換をし、実行に移している。又、積極的に市にサービスの質の向上についても提案し、ホーム自体も介護サービスの情報発信の拠点となっている。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている | ご家族が訪問したときは利用者のことについて職員と話し合っ、利用者の介護記録を見させていただいている。ホーム便りも年4回発行し、訪問の少ない家族には定期的に連絡を取って訪問を促している。一方、金銭管理状況は来訪時にご家族に見ていただく状況なので工夫が必要です。 | ○ | 請求書をご家族に送付する際、金銭管理状況も同封して、定期的に書面で報告することが望まれる。 |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 訪問時にご家族からの意見を積極的に取り入れ、改善に結び付けている。又、1ヶ月に1度訪問する介護相談員を受け入れご意見をサービスに反映させている。 | | |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 異動や離職を抑える為に少し余裕のある人員配置を行っている。利用者に職員の離職へのダメージを防ぐ為、判断能力のある利用者には具体的な離職理由を話している。 | | |


| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|------|---|--|----------------------|-----------------------------------|
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 年間研修計画を作成して、職員が研修会等に積極的に出席をし、その内容をレポートに作成し、全職員が共有できるよう、内部研修できる機会を作っている。新人研修として認知症の理解とケアの研修を行っている。又、市の研修には職員が時間外でも自分の時間を使い学習している。 | | |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 同業者との交流や連携の必要性を運営者は理解し、グループホーム連絡会に加入し参加している。他施設の見学や交流を通じ、事業者同士の質の向上に取り組んでいる。 | | |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 事業所では事前の体験入所を通じて、職員や他の利用者に馴染めるように、入所前に利用者・家族が納得の行くまで十分に話し合っている。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 支援する側という意識でなく、共に生活するアキラの理念である「誰もが生き生きと生きていける 共生の市民生活」を実践している。掃除や散歩・体操やものづくりを利用者、職員が一緒に行い、掃除の仕方、紙花の作り方を教えたり教えてもらったりしながら一緒に楽しいときを過ごしている。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------------------|------|---|--|----------------------|--|
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 職員が利用者と散歩する時、一人ひとりの生活暦を聞き取り、アセスメントに追加記録し、利用者の希望や意向を生活の中で生かし、月1回の職員間のカンファレンスで情報の共有を計っている。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | サービス提供開始前に利用者、家族と話し合いアセスメントに記録し、毎月第4金曜にはチームカンファレンスを行ったり必要に応じて家族の希望、意見を聴き取ったり、又毎日の申し送りや介護記録を参考にして介護計画書を作成しているが利用者・家族の同意の署名、押印がない。 | ○ | 介護計画書を交付する際その都度、利用者・家族に説明した後、同意署名押印を得るように改善されたい。 |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 3ヶ月ごとにモニタリングをしている。利用者の状況や更新に合わせてサービス担当者会議を行いプランの継続や見なおしをしている。 | | |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 利用者、家族の希望に応じて通院の送迎や外出支援など随時行っている。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------------|------|---|---|----------------------|----------------------------------|
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入所の利用者15人中、医師に掛っていないのは2人、協力医療機関から4人が往診を受けている。他はかかりつけ医に受診のため職員、もしくは家族が付き添い通院介助をしている。受診の結果は家族や職員に情報を共有している。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 利用者が重度化した場合、ホームの対応方針としては、医療行為が必要とされる場合（吸引、持続点滴など）は医師、家族、職員に相談をし、速やかに方向性を見出せるよう努力している。 | | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 職員には個人情報の取り扱いについて研修を行い、守秘義務の履行を図り利用者の誇りやプライバシーには、意識を初心にかえって対応している。個人ファイルは、ロッカーに鍵をかけて保存している。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者一人ひとりの個性、自主性を大事にして支援している。ホームから近くのデイサービスに4人が出かけている。朝からみんな掃除や簡単なリハビリとして手、足、腰の運動を行いリハビリ表をチェックし体調をみている。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|------|---|--|----------------------|----------------------------------|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 調理の職員が食材選びや献立、調理をし色々季節感を工夫している。利用者は職員と一緒にお盆ふきや食器洗いなどの後始末に参加している。食事中楽しい雰囲気ですぐに食事が出来るよう心がけている。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 週2回、曜日と時間を決めて入浴支援を行っている。それ以外の希望者にはいつでも入浴支援をしている。入浴を拒んだり嫌で興奮する時は時間をかけ、気持ちを落ち着かせたり、一緒に歌を歌いながら入る。利用者はみんな入浴すると気持ちが良いと喜んでる。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 昔の趣味や特技を、本人や家族に聞き、書道をしたり、職員と一緒に布で座布団を作ったり、本が好きなら図書館で借りたりして支援している。時々利用者と職員で阿波踊りをして体を動かし楽しんでいる。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 利用者は外出が一番好きで天気の日には近所を手をつないだりして、車椅子の4名と共に散歩をし、四季を感じている。スーパーにはチラシをみてカレーのルーなど安いものを買うに行く時は、利用者は生き生きとしている。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 日中玄関の鍵は掛けていない。現在は勝手に出て行く人はいない。職員には身体的拘束について研修し、生活のケアの中でこのことは虐待なのかなどみんなで話し合っって学習している。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|----------------------------------|------|---|--|----------------------|----------------------------------|
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 年2回の火災訓練を実施している。消防署との連携は良く、時々訪問してくれている。消火器は台所に設置され、廊下に避難誘導灯や火災報知器も設置されている。内部研修で社長が火災を想定して実際の行動を確認したり、消防署より消火器の使用訓練をおこなっている。散歩コースに避難場所を職員共に意識して学んでいる。 | | |
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事、水分摂取量はチェック表で把握している。夜間も水分補給にポカリスエットを飲ませている。食事のカロリー計算はしていないが栄養のバランスは考慮している。利用者によって量やきざみ食、好みの温かい、冷たいなどを配慮している。手洗いはペーパータオルを使用している。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | ホーム全体は日本の家屋で自宅に居るような落ち着いた風格がある。木造の玄関も自宅を思わせるような入り口で木造のベンチが置いてある。リビングや廊下には利用者みんなで作った紙の花や沢山の利用者の写真が張られ居心地よく過ごせるよう努めている。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 各居室にはベットと衣類の箱が置かれ全体に整理整頓されている。写真などは廊下に沢山貼られている。ホームの周辺は田園に囲まれているため、空調設備はあるが、自然の光や風をいれ、四季を感じ取れるようにしている。 | | |

※  は、重点項目。